

## 乗鞍エコーライン

乗鞍エコーラインは日本で最も高い場所を走るドライブ・ロードです。乗鞍高原から乗鞍岳の長野県側を登り、日本一標高の高いバス停（標高 2,716m）を経て、終点の畳平（標高 2,702m）までの高山道路です。エコーラインを登ると、標高 2,500m 付近で森林限界を超えるため、突如として広がる絶景に毎年多くの人々が訪れます。また沿道には、三本滝や善五郎の滝といった個性的な滝も楽しめます。

エコーラインは、山の自然生態系を保護するため、三本滝入口ゲートから先は一般車両の通行が禁止されています。ハイキングは 1 年中可能ですが、夏から秋にかけてはバスやタクシー、自転車などでアクセスすることができます。バスは 7 月から 10 月まで毎日、乗鞍高原観光案内所から出発していますが、天候によっては早めに運行を終了することもあります。バスは約 50 分で畳平に到着します。

4 月下旬から 6 月下旬の期間は、乗鞍高原観光案内所のバス停（N29）から終点の位ヶ原山荘前（N38）のバス停まで、スノーウォール・バスが運行されます。スノーウォール・バスは、冬になると 10 メートルもの高さの雪の壁ができることから名付けられたバスです。

エコーラインは、毎年恒例のツール・ド・フランスを彷彿とさせるヘアピンカーブや美しい景色が魅力のサイクリングコースでもあります。1986 年以來、8 月の最終週末に開催されている「乗鞍ヒルクライム」は、全国から集まるトップ選手たちを魅了してきました。この「天空への道」の勝利者は、通常、1,260 メートル、平均勾配 6.1 パーセントを登る全ルートを約 54 分で完走します。2019 年には 4,475 人が参加しました。

乗鞍岳の山頂への道を建設するという考えは、まず長野県側で生まれました。当初の建設には、現在も乗鞍岳でテレマークノルディックスキーを行っている自衛隊の松本駐屯地が協力しました。しかし、岐阜県はエコーラインよりも 6 年早く、1948 年に同じような高山道路「乗鞍スカイライン」を完成させました。

乗鞍岳を訪れる観光客は、そんなことを心配する必要はありません。2 つの高速道路は畳平で合流しており、片方を登り、片方を下ることで、岐阜県側と長野県側の両方の山を楽しむことができます。